

## 成果報告書

### 湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」

総合政策学部 4年 糠沢智子

#### 1.学会名称

ECEM 2011 (16<sup>th</sup> European Conference on Eye Movements)

開催地：フランス、マルセイユ、プロバンス大学 チャールズキャンパス

開催日時：2011年8月21日—8月25日

#### 2.目的

自身の研究成果を報告し、同じ研究を行なっている人々との意見交換と知見を得ることが目的である。

本研究は「ケアインフォマティクス・コンソーシアム」進行中の成果報告でもある。日本の介護業界において、利用者の増加に介護者の数が追いつかず、そのことが質の維持の難しさにもつながってしまっているという問題が指摘されている。「ケアインフォマティクス・コンソーシアム」は、これからますます少子高齢化が進み担い手が必要となる介護業界で、ITを活用しこのような問題を打開する研究を進めるというものだ。

このプロジェクトの進行中に得られた介護施設で働く介護士の眼球運動データを分析し、介護熟練者の行動特性を明らかにしようと試みた。学会へ参加し成果報告をするとともに、意見交換から知見を得た上で研究を進めることでプロジェクトの遂行と介護業界が抱える問題の解決への一助としたいと考えている。

#### 3.参加者

政策・メディア研究科特任講師 福田亮子

SFC 研究所 上席所員（訪問）吉田可奈子

総合政策学部 4年 糠沢智子

#### 4.学会発表の概要

ECEM は二年に一度開催される眼球運動国際学会である。学会に参加するためには眼球運動に基づいた研究を行なっている必要がある。一口に眼球運動といっても幅が広く、脳の視覚情報処理から消費者行動まで様々な研究が行われている。発表を聞き、意見交換をすることによって互いの知見を深めていくことが目的となっている。開催国はフランス、マルセイユのプロバンス大学チャールズキャンパスであった。参加者は約500名であり、参加者の出身国は開催地付近のヨーロッパ諸国に限らず、台湾やアメリカ、メキシコなど幅が広がった。発表は全て英語で行われた。

#### 5.感想

2011年8月23日ポスターセッションにて発表を行なった。より多くの人々へ自分の発表を聞いてもらうために、セッション以外の時間帯もポスター付近で待機していた。そのせいもあって、アブストラクトから私の研究を見つけて来てくださった多くの方に発表を聞いていただくことができた。発表を経験して得られたことは二つ。まず、学会発表は新たな気づきを与えてくれる場所であるということだ。発表ではどの方々も熱心に話を聞いてくださり、様々なアドバイスをいただくことができた。今まで考えてきた視点とは異なる角度からアドバイスをいただくことも多く、知見を広げることができた。

第二に、英語で発表することの意味を学べた。公式的な場所で英語を用いて発表するのは初めてであった。学会発表には様々な言語を使う人々が集まっており共通言語として英語がいかに大切かを学べた。普段同じフィールドの研究をしていたとしても、自国の言語のみで研究を行なっている限り、互いの研究に触れる機会は少ない。そのような共通の研究をしている人々と英語という言語を通して意思疎通をし、互いを知ることができることはこのような学会に参加しなければ得ることができないものであった。

## 5. 今後の展望

今回学会で得られた新しい視点に基づいて研究を進めていきたい。